

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通				
教科	国語	科目	論理国語		単位	2	必修 選択	必修	
使用教科書	「論理国語」(数研出版)		補助教材等	「論理国語 準拠ワーク」(数研出版)					
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	重点	○		◎		○			
	評価規準	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。		・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考えながら、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。		・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。			
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価				
					観点	評価の手段			
第1学期 中間 考查まで	<逆説> ○「手の変幻」 ・慣用句の意味と用法を的確に理解し、説明する。 ・逆説的な表現の内容をとらえる。 ・腕あるいは手というものの人間存在における象徴的な意味を理解する。 ・「芸術作品のあり方」や「芸術鑑賞の仕方」について考えを深める。	知識・技能	定期考查等		課題やレポート		授業での活動		
			思考・判断・表現	定期考查等		課題やレポート		授業での活動	
				振り返りシート等					
第1学期 期末 考查まで	<逆説> ○「胆力について」 ・文章の構成を確かめ、「『驚き』が知的探究を動機づける」という主張の内容を的確にとらえる。 ・逆説的な表現によって筆者の主張が効果的に伝えられていることを理解する。 ・慣用句の意味と用法を的確に理解し、説明する。 ・「知性」というものの本質について考察する。 <言葉と創造> ○「国境を越える言葉」 ・文章の構成を確かめ、筆者が主張する「もう一つの言葉」についての的確にとらえる。 ・文章の展開において逆接の接続詞が果たす役割を意識する。 ・国境を越えて概念を共有することの大切さと難しさについて考える。	知識・技能	定期考查等		課題やレポート		授業での活動		
			思考・判断・表現	定期考查等		課題やレポート		授業での活動	
				振り返りシート等					
第1学期	観点別評価	知識・技能	◎		◎		○		
			評価規準	・慣用句や逆説的表現について意味・用法を正確に理解している。 ・腕あるいは手というものの人間存在における象徴的な意味を理解している。 ・「『驚き』が知的探究を動機づける」という主張の内容を理解している。 ・筆者が主張する「もう一つの言葉」について理解している。		・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 ・「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。		・「芸術作品のあり方」や「芸術鑑賞の仕方」について考えを深めようとしている。 ・「知性」というものの本質について考察している。 ・国境を越えて概念を共有することの大切さと難しさについて考えようとしている。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
	観点	評価の手段			
第2学期 中間 考査まで	<近代と現代の視点> ○「未来世代への責任」 ・「悪魔」「倫理」「利己心」などのキーワードに沿って本文を読解する。 ・「共有地の悲劇」についての具体例を、筆者の主張に結びつけて理解する。 ・経済学、環境問題、資本主義など、現代社会を考えるために必要不可欠な事項に関する基本的な考えを学ぶ。 <b>【ズームアップ】地球環境問題</b>	知識技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		
		思考判断表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
		主体的に学習に取り組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第2学期 期末 考査まで	<言葉と思考> ○「日本語は非論理的か」 ・文章の展開と構造を正確にとらえ、「日本人が非論理的だと言われる」理由を的確にとらえる。 ・「日本人のコミュニケーションの技術」の内容を理解する。 ・日本語の「論理的」な使用法について考察する。 <b>【ズームアップ】日本文化を理解する</b>	知識・技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		
		思考判断表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
		主体的に学習に取り組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第2学期	観点別評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価規準	・「悪魔」「倫理」「利己心」などのキーワードに沿って本文を読解している。 ・「共有地の悲劇」についての具体例を、筆者の主張に結びつけて理解している。 ・「日本人のコミュニケーションの技術」の内容を理解している。	・「読むこと」において、人間、社会、自然について、文章の内容や解釈を多様な観点や異なる価値観と結びつけて新たな視点から自分の考えを深めている。 ・「書くこと」において、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、自分の主張が明確に伝わる文章になるように工夫している。	・経済学、環境問題、資本主義など、現代社会を考えるために必要不可欠な事項に関する基本的な考えを学ぼうとしている。 ・日本語の「論理的」な使用法について考察している。	
学年 末 考査まで	<情報と社会> ○「消費されるスポーツ」 ・アメリカの近代スポーツの特徴と大衆消費社会との関連性を理解する。 ・近代スポーツのメディアの発達に伴った変容について読解し、「テレビは一つの権力になった」の示す意味を理解する。 ・「スポーツが社会を可視化している」とはどういうことか、説明する。 ・「スポーツ」が私たちの生活に与える影響について、筆者の主張をふまえて自分の意見を書く。	知識技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		
		思考判断表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
		主体的に学習に取り組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第3学期	観点別評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価規準	・アメリカの近代スポーツの特徴と大衆消費社会との関連性を理解している。 ・近代スポーツのメディアの発達に伴った変容について読解し、「テレビは一つの権力になった」の示す意味を理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	・「スポーツ」が私たちの生活に与える影響について、筆者の主張をふまえて自分の意見をまとめている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系			
教科	国語	科目	古典探究		単位	3	必修 選択	必修
使用教科書	精選古典探究古文編 (東京書籍) 精選古典探究漢文編 (東京書籍)		補助教材等		「精選古典探究古文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「精選古典探究漢文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「基礎から学ぶ解析古典文法」 (桐原書店) 「漢文必携」 (桐原書店)			
科目の目標	言語活動を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)				観点別評価			
第1学期 中間 期末 考査 まで	〈古文〉 「小野篁、広才のこと」 (宇治拾遺物語) ・係助詞や敬語の基本的な用法を確認する。 「能は歌詠み」 (古今著聞集) 和歌を含んだ説話を、構成を的確に捉えながら読み取る。  〈漢文〉 「不死之薬」 (韓非子) 「漱石枕流」 (世説新語) ・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。 ・故事成語の成り立ちと意味を調べる。	知識 技能	定期考査等 課題やノート 小テスト等		思考 判断 表現	定期考査等 授業での活動 振り返りシート等		
			主体的に 学習に 取り組 む態度	課題やノート 授業での活動 振り返りシート等				
第1学期 期末 考査 まで	〈古文〉 「初冠」 (伊勢物語) ・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・紛らわしい語「に」の識別方法を確認する。 「中納言参りたまひて」 (枕草子) 「雪のいと高う降りたるを」 (枕草子) ・随筆の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。 ・二重敬語や二方面に対する敬意について理解を深める。  〈漢文〉 「近体詩」 ・唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ・唐代の代表的な詩人について理解する。	知識 技能	定期考査等 課題やノート 小テスト等		思考 判断 表現	定期考査等 授業での活動 振り返りシート等		
			主体的に 学習に 取り組 む態度	課題やノート 授業での活動 振り返りシート等				
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
		・本文中の形容詞や形容動詞の意味や用法などの文法事項を理解している。 ・起承転結の展開を理解し、訓点に従って漢文を読み、正確に書き下し文にすることができる。		・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して作者や作中人物の心情と内容を的確に捉えている。 ・文章や台詞に込められたおもしろさを理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。		・登場人物の行動や会話を読み取り、その時代を生きる人たちの生活様式やしきたりについて理解を深めようとしている。 ・漢詩に描かれた情景を味わおうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考查まで	(漢文) 「鴻門之会」(史記) ・「紀伝体」や「列伝」といった史書の形式、用語について理解する。 ・「何以」「奈何」などの疑問や反語の句法について理解する。 (古文) 「門出」(更級日記) ・女流日記文学の流れと概要について学び、理解する。 ・他の作品との関係も踏まえながら日記を読み、作者の境遇を的確に捉える。			知識 技能	定期考査等	
					課題やノート	
					小テスト等	
第2学期 期末 考查まで	(漢文) 「四面楚歌」(史記) ・『史記』を読み、項羽の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。 ・「すなはち」と訓読する文字とその意味の違いを理解する。 ・故事成語の意味を調べ、どのように使われるか確認する。 (古文) 「なげきつつ」(蜻蛉日記) ・日記に表れている作者のもの見方、感じ方、考え方を、自分と関係づけながら読み取る。 ・紛らわしい語「らむ」の識別方法を確認する。			知識 ・ 技能	定期考査等	
					課題やノート	
					小テスト等	
第2学期	観点別 評価 ◎			知識・技能	◎	
					思考・判断・表現	○
						主体的に学習に取り組む態度
第2学期	評価 規 準 ・本文中の助動詞の意味や用法などの文法事項を理解し、現代語訳ができる。 ・本文中の漢字の意味・用法を理解し、訓点に従って漢文を読み、正確に書き下し文にできる。 ・複数の場面における登場人物の心情や考え方を論理的にとらえることで、その人物像をより深く理解している。 ・日記を通して作者の置かれた境遇や物語に向けられた心情を読み取れている。 文学史における女流日記文学の位置づけについて、他の日記文学との対比の中で読み取ろうとしている。			知識 技能		
					思考 判断 表現	
						小テスト等
学年 末 考查 まで	(古文) 「光源氏の誕生」(源氏物語) ・平安朝文学の代表作であり、後世の作品にも多大な影響力をもつ源氏物語の読解を通して、作り物語の内容を的確に読み取る。 「八代集の世界」 ・表現の特色を踏まえながら、和歌の内容を読み取る。 (漢文) 「論語」 「孟子」 「老子」 ・思想の異なる複数の思想家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。			知識 技能		定期考査等
					思考 判断 表現	課題やノート
						小テスト等
第3学期	観点別 評価 ◎			知識・技能		◎
					思考・判断・表現	○
						主体的に学習に取り組む態度
第3学期	評価 規 準 ・文学作品の概要や特徴について理解している。 ・「儒家」や「道家」などについて、代表的な思想家と思想内容を正しく理解している。 ・登場人物の関係を整理し、物語全体の主人公である光源氏がどのような状況の中で誕生したのか読み取ることができる。 ・それぞれの思想家が強調・重視していることを読み取ることができる。 ・これまでの学習で扱ってきた作品を確認し、『源氏物語』が他の作品に与えた影響について考えようとしている。 ・儒家の教えと道家の教えについて、そのような考え方が生まれた背景を考えようとしている。			知識 技能		
					思考 判断 表現	
						小テスト等

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系
教科	国語	科目	古典講読	単位	2 必修 選択 必修
使用教科書	精選古典探究古文編 (東京書籍) 精選古典探究漢文編 (東京書籍)	補助教材等	「精選古典探究古文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「精選古典探究漢文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「基礎から学ぶ解析古典文法」 (桐原書店) 「漢文必携」 (桐原書店)		
科目の目標	言語活動を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価	
第1学期 中間 期末 考査 まで	〈古文〉 「小野篁、広才のこと」 (宇治拾遺物語) ・係助詞や敬語の基本的な用法を確認する。 「能は歌詠み」 (古今著聞集) 和歌を含んだ説話を、構成を的確に捉えながら読み取る。  〈漢文〉 「不死之薬」 (韓非子) ・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。 ・故事成語の成り立ちと意味を調べる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	
		定期考査等 課題やノート 小テスト等	定期考査等 授業での活動 振り返りシート等	課題やノート 授業での活動 振り返りシート等	
第1学期 期末 考査 まで	〈古文〉 「初冠」 (伊勢物語) ・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・紛らわしい語「に」の識別方法を確認する。 「中納言参りたまひて」 (枕草子) ・随筆の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。 ・二重敬語や二方面に対する敬意について理解を深める。  〈漢文〉 「近体詩」 ・唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ・唐代の代表的な詩人について理解する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	
		定期考査等 課題やノート 小テスト等	定期考査等 授業での活動 振り返りシート等	課題やノート 授業での活動 振り返りシート等	
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価規準	◎ ・本文中の形容詞や形容動詞の意味や用法などの文法事項を理解している。 ・起承転結の展開を理解し、訓点に従って漢文を読み、正確に書き下し文にすることができる。	○ ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して作者や作中人物の心情と内容を的確に捉えている。 ・文章や台詞に込められたおもしろさを理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	○ ・登場人物の行動や会話を読み取り、その時代を生きる人たちの生活様式やしきたりについて理解を深めようとしている。 ・漢詩に描かれた情景を味わおうとしている。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	〈漢文〉 「鴻門之会」（史記） ・「紀伝体」や「列伝」といった史書の形式、用語について理解する。 ・「何以」「奈何」などの疑問や反語の句法について理解する。 〈古文〉 「門出」（更級日記） ・女流日記文学の流れと概要について学び、理解する。 ・他の作品との関係も踏まえながら日記を読み、作者の境遇を的確に捉える。			知識 技能	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等
第2学期 期末 考査まで	〈漢文〉 「四面楚歌」（史記） ・『史記』を読み、項羽の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。 ・「すなはち」と訓読する文字とその意味の違いを理解する。 ・故事成語の意味を調べ、どのように使われるか確認する。 〈古文〉 「なげきつつ」（蜻蛉日記） ・日記に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を、自分と関係づけながら読み取る。 ・紛らわしい語「らむ」の識別方法を確認する。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等
第2学期	観点別 評価 ◎			知識・技能	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等
第2学期	評価 規 準 ・本文中の助動詞の意味や用法などの文法事項を理解し、現代語訳ができる。 ・本文中の漢字の意味・用法を理解し、訓点に従って漢文を読み、正確に書き下し文にできる。			思考・判断・表現	定期考査等
					授業での活動
					振り返りシート等
第2学期	主体的に 学習に 取り 組む 態 度 ○			主体的に 学習に 取り 組む 態 度	課題やノート
					授業での活動
					振り返りシート等
学年 末 考査 まで	〈古文〉 「光源氏の誕生」（源氏物語） ・平安朝文学の代表作であり、後世の作品にも多大な影響力をもつ源氏物語の読解を通して、作り物語の内容を的確に読み取る。 〈漢文〉 「論語」 「孟子」 「老子」 ・思想の異なる複数の思想家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。			知識 技能	定期考査等
					課題やノート
					小テスト等
第3学期	観点別 評価 ◎			思考・判断・表現	定期考査等
					授業での活動
					振り返りシート等
第3学期	主体的に 学習に 取り 組む 態 度 ○			主体的に 学習に 取り 組む 態 度	課題やノート
					授業での活動
					振り返りシート等
第3学期	評価 規 準 ・文学作品の概要や特徴について理解している。 ・「儒家」や「道家」などについて、代表的な思想家と思想内容を正しく理解している。			思考・判断・表現	定期考査等
					授業での活動
					振り返りシート等
第3学期	主体的に 学習に 取り 組む 態 度 ○			主体的に 学習に 取り 組む 態 度	課題やノート
					授業での活動
					振り返りシート等
第3学期	評価 規 準 ・登場人物の関係を整理し、物語全体の主人公である光源氏がどのような状況の中で誕生したのか読み取ることができる。 ・それぞれの思想家が強調・重視していることを読み取ることができる。			主体的に 学習に 取り 組む 態 度	定期考査等
					授業での活動
					振り返りシート等
第3学期	主体的に 学習に 取り 組む 態 度 ○			主体的に 学習に 取り 組む 態 度	課題やノート
					授業での活動
					振り返りシート等
第3学期	評価 規 準 ・これまでの学習で扱ってきた作品を確認し、『源氏物語』が他の作品に与えた影響について考えようとしている。 ・儒家の教えと道家の教えについて、そのような考え方が生まれた背景を考えようとしている。			主体的に 学習に 取り 組む 態 度	定期考査等
					授業での活動
					振り返りシート等

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系
教科	地理歴史	科目	地理探究	単位	2 必修 選択
使用教科書	地理探究（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）		補助教材等	最新地理図表GEO（第一学習社） ニューコンパスノート地理 （東京法令出版）	
科目の目標	世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題などを理解し、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、説明、議論したりする力を養い、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚などを深める。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
	評価規準	・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題などを理解している。 ・調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・地理に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚を深めようとしている。	
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
第1学期 中間 考査まで	地理探究へのステップ ・地図の見方・活用方法 ・地形図の読み取り  第1編 現代世界の系統地理的考察 第4章 人口、村落・都市 1 人口 2 人口問題 ・人口動態について理解するとともに、人口爆発や少子高齢化など現代世界や日本における人口問題やその要因・対策について考察し、表現する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	
第1学期 期末 考査まで	第2章 産業と資源 1 産業の発展と社会的分業 ・産業構造の特徴や変化について、産業革命など歴史的背景もふまえながら理解する。 2 農林水産業 ・農業の立地や形態の特徴、分布の傾向性について理解するとともに、地形や気候、歴史的背景などに着目して考察し、表現する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価規準	・世界や日本の人口分布の特徴について理解している。 ・農業の立地や形態の特徴、分布の傾向性について理解している。 ・地図や統計などの諸資料から観光の動向や変化を読み取る技能を身に付けている。	・世界や日本の人口問題について多面的に考察している。 ・農業の現状や課題の解決に向けた取組について多面的に考察している。	・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・世界の諸地域における多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さへについて自覚を深めようとしている。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考查まで	2 農林水産業 ・林業・水産業の形態の特徴や分布の傾向性について理解するとともに、地形や気候、歴史的背景などに着目して考察し、表現する。 3 食料問題 ・食品の安全性や飢餓など農林水産業の現状や課題を理解し、その解決に向けた取組を多面的・多角的に考察し、表現する。	知識 技能	定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
			思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート	授業での活動
				振り返りシート等		
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等		
第2学期 期末 考查まで	4 エネルギーと鉱山資源 5 資源・エネルギー問題 ・地図や統計などの諸資料から資源やエネルギー供給の特徴や分布を読み取る活動をふまえ、資源・エネルギーに関連する地球的課題の要因や動向を考察し、表現する。	知識 ・ 技能	定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
			思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート	授業での活動
				振り返りシート等		
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等		
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・林業・水産業の形態の特徴や分布の傾向性について理解している。 ・資源・エネルギーの分布や供給の動向について、地図や統計などの諸資料から読み取る技能を身に付けている。	・林業・水産業の現状や課題の解決に向けた取組について多面的に考察している。 ・資源・エネルギーに関連する地球的課題の要因や動向を考察し、表現している。	・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・世界の諸地域における多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さへについて自覚を深めようとしている。		
学年 末 考查 まで	6 工業の立地と工業地域の変容 ・工業の立地条件や業種ごとの特徴をふまえて、世界の各地域における工業の立地の傾向性について考察し、表現するとともに、世界や日本の工業の現状や課題を理解する。 7 第三次産業 ・地図を活用して商業や情報通信業の立地を読み取る活動を通して、第三次産業の動向を理解する。	知識 技能	定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
			思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート	授業での活動
				振り返りシート等		
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等		
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・工業の立地や形態の特徴、分布の傾向性について理解している。 ・地図や統計などの諸資料から観光の動向や変化を読み取る技能を身に付けている。	・地理的条件や文化、歴史的背景をふまえて工業の立地を多面的に考察している。	・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・現代の世界でみられる諸課題について関心を深めようとしている。		

※「◎」特に重視する観点



令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系			
教科	地理歴史	科目	日本史探究		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	「日本史探究」(実教出版)		補助教材等	「新詳日本史」(浜島書店) 「日本史探究マイノート」(実教出版)				
科目の目標	日本史に関わる諸事象を、地理的条件や世界史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から日本史に関する情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。 日本史の意義や伝統などを、時期などを比較し、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を養う。 課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国の文化を尊重することの大切さの自覚などを深める。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	日本史に関わる諸事象を、地理的条件や世界史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から日本史に関する情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。		日本史に関わる事象の意義や伝統などを、時期や推移を比較し現在とのつながりなどに着目し多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を身に付けている。		日本史に関わる諸事象について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民として自覚し、他国の文化を尊重することの大切さを認め、課題を主体的に探究しようとしている。		
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価			
第1学期 中間 考查まで	第1部 原始・古代の日本と東アジア 1 日本文化のあけぼの 2 ヤマト政権の成立と古墳文化 ・旧石器文化から縄文・弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成などその特色を理解させる。 ・国家の形成と古墳文化などを基に、特色を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・自然環境と人間の生活との関わり、大陸との関係、略奪社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察させる。				知識 技能	定期 考查等	課題 やレポ ート	授業 での活 動
					思考 判断 表現	定期 考查等	課題 やレポ ート	授業 での活 動
第1学期 期末 考查まで	3 律令国家の形成 ・律令体制の成立過程、貴族政治の展開などを基に、古代の社会と文化の変容を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・大陸との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成から古代国家の形成の過程について多面的・多角的に考察させる。				知識 技能	定期 考查等	課題 やレポ ート	授業 での活 動
					思考 判断 表現	定期 考查等	課題 やレポ ート	授業 での活 動
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価 規準	・原始から古代の国家・社会の歴史的環境と文化の形成などその特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。		・自然環境と人間の生活との関わりや、大陸との関係の変化、社会の変化などに着目して、国家と文化の形成について、多面的・多角的に考察している。		・原始から古代の日本について、主体的にかつ他者と協働とながら、多面的・多角的に考察しようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	4 古代の国家・社会の変容  ・地方支配の変化や武士の出現、文化の特色などを基に、律令体制の再編と変容を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・大陸との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成から古代国家の形成の過程について多面的・多角的に考察させる。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期 期末 考查まで	第2部 中世の日本と世界 1 荘園公領制の成立と院政  ・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・中世社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察させる。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期 期末 考查まで	第2部 中世の日本と世界 2 中世の国家・社会の展開  ・武家政権の成立と展開、産業、宗教や文化の展開などを基に、その伸張、社会や文化の特色を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・中世社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察させる。			思考 判断 表現	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期 期末 考查まで	第2部 中世の日本と世界 2 中世の国家・社会の展開  ・武家政権の成立と展開、産業、宗教や文化の展開などを基に、その伸張、社会や文化の特色を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・中世社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察させる。			主体的に 学習に 取り組 む態度	課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・貴族社会から武家社会への社会の歴史的変化など、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・貴族社会から武家社会への移行と東アジア世界の変容などに着目して、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察している。	・貴族社会から武家社会への日本の変化について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。	
学年 末 考 査 ま で	第2部 中世の日本と世界 2 中世の国家・社会の展開  ・武家政権の成立と展開、産業、宗教や文化の展開などを基に、その伸張、社会や文化の特色を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・中世社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察させる。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第3学期	第2部 中世の日本と世界 2 中世の国家・社会の展開  ・武家政権の成立と展開、産業、宗教や文化の展開などを基に、その伸張、社会や文化の特色を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・中世社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察させる。			思考 判断 表現	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第3学期	第2部 中世の日本と世界 2 中世の国家・社会の展開  ・武家政権の成立と展開、産業、宗教や文化の展開などを基に、その伸張、社会や文化の特色を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・中世社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察させる。			主体的に 学習に 取り組 む態度	課題やレポート
					授業での活動
					振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・貴族社会から武家社会への社会の歴史的変化など、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・貴族社会から武家社会への移行と東アジア世界の変容などに着目して、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察している。	・貴族社会から武家社会への日本の変化について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系			
教科	地理歴史	科目	世界史探究		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	「世界史探究」(実教出版)		補助教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミア世界史(浜島書店)</li> <li>・世界史探究マイノート(実教出版)</li> <li>・ウィニングコンパス世界史の整理と演習(とうほう)</li> <li>・詳説世界史10分間テスト(山川出版社)</li> </ul>				
科目の目標	世界史に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。 世界の諸地域について、時期や地理的条件などを比較し、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を養う。 課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される世界の中での日本人としての自覚や他国の文化を尊重することの大切さの自覚を深める。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
観点別評価	評価規準	世界史に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。		世界の諸地域での事象について、時期や推移を比較し、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を身に付けている。		世界の諸地域での事象について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して世界の中で生きる日本人としての自覚を持つとともに、他国の文化を尊重することの大切さを認め、課題を主体的に探究しようとしている。		
	期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価		
第1学期 中間 期末 考査 まで	第1部 諸地域の歴史的特質の形成 第1章 古代文明 ・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解させる。 ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 第2章 東アジアと中央ユーラシア ・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解させる。 ・諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現させる。	知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		主体的に 学習に 取り組 む態 度	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
		思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
		知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動			定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第1学期 期末 考査 まで	第3章 南アジアと東南アジア ・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解させる。 第4章 西アジアと地中海周辺 第5章 西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成 ・西アジアと地中海周辺の諸国家などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解させる。 ・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		主体的に 学習に 取り組 む態 度	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
		思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
		知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動			定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎		思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価規準	・原始から古代の国家・社会の歴史的環境と文化の形成などその特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。		・自然環境と人間の生活との関わりや、周辺諸地域との関係の変化、社会の変化などに着目して、国家と文化の形成について、多面的・多角的に考察している。		・原始から古代の世界について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考查まで	第2部 諸地域の交流と再編 第6章 イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 ・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりをも構造的に理解させる。 ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編 ・宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりをも構造的に理解させる。			知識 技能	定期考査等	
					思考 判断 表現	課題やレポート
						授業での活動
振り返りシート等						
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート					
	授業での活動					
	振り返りシート等					
第2学期 期末 考查まで	第8章 大交易時代 ・アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解させる。 ・諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 第9章 アジア諸地域の帝国 ・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特徴を構造的に理解させる。			知識 ・ 技能	定期考査等	
					思考 判断 表現	課題やレポート
						授業での活動
振り返りシート等						
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート					
	授業での活動					
	振り返りシート等					
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・諸地域の交流と再編、それに伴う変容について、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・古代から中世へと推移していく中での諸地域の政治、社会、経済的特徴などに着目して、中世の国家・社会の変容について多面的・多角的に考察している。	・諸地域の交流と再編について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。		
学年 末 考查 まで	第10章 近世ヨーロッパの形成と展開 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解させる。 ・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させる。			知識 技能	定期考査等	
					思考 判断 表現	課題やレポート
						授業での活動
振り返りシート等						
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート					
	授業での活動					
	振り返りシート等					
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・近世ヨーロッパの形成と展開について、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・宗教改革や三角貿易の展開、啓蒙思想の広がりなどに着目して近世ヨーロッパ社会の成立と展開について多面的・多角的に考察している。	・近世の国家・社会の変容についての意味や意義、関係性について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。		

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通			
教科	公民	科目	公共		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「詳述公共」(実教出版)		補助教材等	フォーラム公共(東京法令出版) 詳述公共演習ノート(実教出版)				
科目の目標	現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解するとともに、必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけさせ、現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を養うことで、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めさせる。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解している。</li> <li>必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を身につけている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。</li> </ul>		
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価			
第1学期 中間 期末 考査 まで	<b>第1編 公共の扉</b> <b>1 青年期と自己形成</b> ・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 <b>2 世界の思想</b> ・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料からよりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付け、多面的・多角的に考察し、表現する。				知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		
					思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第1学期 期末 考査 まで	<b>3 民主社会の倫理</b> ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解し、実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。 <b>4 民主国家の基本原則</b> ・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解する。 ・公共的な空間における基本的原理の一つである人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について考察し、理解する。				知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		
					思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティについて理解している。</li> <li>世界の思想や民主社会の倫理、民主国家の原理について理解している。</li> <li>人間としての在り方生き方に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期に生きる自己形成の課題について考えている。</li> <li>人間としての在り方生き方について考えている。</li> <li>個人と社会との関わりについて多面的に考察し表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。</li> </ul>		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 日本国憲法の成立 ・日本国憲法の基本原理を理解し、国際平和と人権の尊重について、考察する。 2 日本の政治機構と政治 ・わが国の三権分立と国会の地位、国会の役割と権限国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ・政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察する。 ・地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察する。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期 期末 考査まで	3 現代の経済社会 ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の課題を考察する。 4 経済活動と国民福祉 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期	観点別評価 ◎			知識・技能	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期	◎ ・わが国の憲法や政治機構について理解している。 ・実際の政治事象や現代の経済社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。			思考・判断・表現	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期	◎ ・人権や実際の政治事象についての課題について多面的に考察し表現している。 ・現代の経済社会についての課題について多面的に考察し表現している。			主体的に学習に取り組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
学年末 考査まで	5 国際政治の現状と課題 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 6 国際経済の現状と課題 ・自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・為替のしくみと外国為替市場、国際通貨制度とその変化、国際金融の動向について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・現代の諸課題について、探究的な課題を設定し課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第3学期	◎ ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。			思考・判断・表現	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第3学期	◎ ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・国際社会に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。			主体的に学習に取り組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第3学期	◎ ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・国際社会に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。			主体的に学習に取り組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系
教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位	4 必修 選択 必修
使用教科書	「新編 数学Ⅱ」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学Ⅱ(数研出版)	
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培うことで、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
	評価規準	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価	
第1学期 中間 考查まで	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 第2節 円 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
第1学期 期末 考查まで	第3節 軌跡と領域 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第4章 三角関数 第1節 三角関数 角の概念を一般まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
第1学期	観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
		・因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ・座標平面上において、2点間の距離、内分点・外分点・重心の座標が求められる。 ・与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	・高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 ・図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ・直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 ・円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ・点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察している。	・1の3乗根の性質に興味・関心を持ち、具体的な問題に取り組もうとしている。 ・図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとしている。 ・ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとしている。 ・少し複雑な不等式の表す領域についても、興味を持ち、取り組もうとしている。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	第2節 加法定理 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。  第6章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第2節 対数関数 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
		授業での活動			
第2学期 期末 考查まで	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 第2節 関数の値の変化 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
		授業での活動			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。</li> <li>加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。</li> <li>指数法則、対数の性質を利用して計算ができる。</li> <li>指数関数と対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。</li> <li>微分係数や導関数の意味について理解している。</li> <li>接線の方程式の公式を利用して、接線の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。</li> <li>指数関数・対数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察している。</li> <li>最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法定理の証明について、一般角に対しても成り立つことに興味をもち、考察しようとしている。</li> <li>指数と対数との相互関係に興味・関心をもち、関係性を考察している。</li> <li>接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとしている。</li> <li>関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフをできるだけ正しく描こうとしている。</li> </ul>	
学年 末 考查 まで	第3節 積分法 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。  課題学習			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
		授業での活動			
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとしている。</li> </ul>	

※「◎」特に重視する観点



令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系
教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位	3 必修 選択 必修
使用教科書	「新編 数学Ⅱ」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学Ⅱ(数研出版)	
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培うことで、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
	評価規準	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価	
				観点	評価の手段
第1学期 中間 考查まで	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 第2節 円 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	定期 考查等 課題 やレポ ート
					定期 考查等 課題 やレポ ート
					課題 やレポ ート 授業 での活 動
第1学期 期末 考查まで	第3節 軌跡と領域 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第4章 三角関数 第1節 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	定期 考查等 課題 やレポ ート
					定期 考查等 課題 やレポ ート
					課題 やレポ ート 授業 での活 動
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ・座標平面上において、2点間の距離、内分点・外分点・重心の座標が求められる。 ・与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ・与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ・点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。	・高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 ・図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ・直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 ・円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。	・1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ・ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ・少し複雑な不等式の表す領域についても、興味をもち、取り組もうとする。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期中間 考查まで	第2節 加法定理 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。  第6章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第2節 対数関数 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
		授業での活動			
第2学期期末 考查まで	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 第2節 関数の値の変化 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 第3節 積分法 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。  課題学習			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート				
		授業での活動			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。</li> <li>・加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。</li> <li>・指数法則、対数の性質を利用して計算ができる。</li> <li>・指数関数と対数関数のグラフの概形、特徴を理解している。</li> <li>・微分係数や導関数の意味について理解している。</li> <li>・接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。</li> <li>・導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。</li> <li>・定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。</li> <li>・指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。</li> <li>・指数関数・対数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。</li> <li>・微分係数の図形的意味を理解している。</li> <li>・最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。</li> <li>・面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかりて考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法定理の証明について、一般角に対しても成り立つことに興味をもち、考察しようとしている。</li> <li>・指数と対数との相互関係に興味・関心をもとうとしている。</li> <li>・接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとしている。</li> <li>・関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフをできるだけ正しくかくようとする。</li> <li>・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。</li> </ul>	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系
教科	数学	科目	数学B	単位	1 必修 選択
使用教科書	「新編 数学B」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学B(数研出版)	
科目の目標	数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培うことで, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
	評価規準	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学化したリ, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。	
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第1学期 中間 期末 考査 まで	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 数列やその一般項の表し方について理解する。また, 基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し, それらの和を求められるようにする。また, これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ・数列と一般項 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	定期考査等 課題やレポート
					定期考査等 課題やレポート
					課題やレポート 授業での活動
第1学期 期末 考査 まで	第2節 いろいろな数列 和の記号 $\Sigma$ の表し方や性質を理解し, 活用できるようにする。また, いろいろな数列について, その一般項や和を求めたり, 和から一般項を求めたりできるようにする。 ・和の記号 $\Sigma$ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	定期考査等 課題やレポート
					定期考査等 課題やレポート
					課題やレポート 授業での活動
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
		・数列の定義, 表記について理解している。 ・等比数列の公比, 一般項, 和の公式などを理解している。 ・等差数列の公差, 一般項, 和の公式などを理解している。 ・記号 $\Sigma$ の意味と性質を理解し, 数列の和が求められる。 ・和の求め方の工夫をして, 数列の和が求められる。	・等差数列や等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。 ・初項から第n項までの和に着目して, 一般項を考察できる。 ・数列の和を記号 $\Sigma$ で表して, 和の計算を簡単に行うことができる。	・等差数列や等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち, 等差数列の和の公式を導こうとしている。 ・ $f(k+1)-f(k)$ を用いる和の求め方に興味をもち, 具体的な問題に活用しようとしている。 ・群数列に興味をもち, 考察しようとしている。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	第3節 数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。 ・漸化式 ・数学的帰納法	知識 技能	定期考査等	課題やレポート	
		思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート	
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・漸化式の意味を理解し，具体的に項が求められる。 ・自然数nに関する命題の証明には，数学的帰納法が有効なことを理解している。	・複雑な漸化式を，おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。	・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとしている。 ・数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系
教科	数学	科目	数学B	単位	1 必修 選択 必修
使用教科書	「新編 数学B」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学B(数研出版)	
科目の目標	数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培うとともに, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
	評価規準	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学化したリ, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付ける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。	
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第1学期 中間 期末 考査 まで	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 数列やその一般項の表し方について理解する。また, 基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し, それらの和を求められるようにする。また, これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ・数列と一般項 ・等差数列 ・等差数列の和 ・等比数列 ・等比数列の和	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	定期考査等 課題やレポート
					定期考査等 課題やレポート
					課題やレポート 授業での活動
第1学期 期末 考査 まで	第2節 いろいろな数列 和の記号 $\Sigma$ の表し方や性質を理解し, 活用できるようにする。また, いろいろな数列について, その一般項や和を求めたり, 和から一般項を求めたりできるようにする。 ・和の記号 $\Sigma$ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	定期考査等 課題やレポート
					定期考査等 課題やレポート
					課題やレポート 授業での活動
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
		・数列の定義, 表記について理解している。 ・等比数列の公比, 一般項, 和の公式などを理解している。 ・等差数列の公差, 一般項, 和の公式などを理解している。 ・記号 $\Sigma$ の意味と性質を理解し, 数列の和が求められる。 ・和の求め方の工夫をして, 数列の和が求められる。	・等差数列や等比数列の項を書き並べて, 隣接する項の関係が考察できる。 ・初項から第n項までの和に着目して, 一般項を考察できる。 ・数列の和を記号 $\Sigma$ で表して, 和の計算を簡単に行うことができる。	・等差数列や等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち, 等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ・ $f(k+1)-f(k)$ を用いる和の求め方に興味をもち, 具体的な問題に活用しようとする。 ・群数列に興味をもち, 考察しようとする。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	第3節 数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。 ・漸化式 ・数学的帰納法	知識 技能	定期考査等		課題やレポート
		思考 判断 表現	定期考査等		課題やレポート
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート		授業での活動		
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・漸化式の意味を理解し，具体的に項が求められる。 ・自然数nに関する命題の証明には，数学的帰納法が有効なことを理解している。	・複雑な漸化式を，おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。	・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。 ・数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系		
教科	数学	科目	数学C		単位	1	必修 選択
使用教科書	「新編 数学C」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学C(数研出版)			
科目の目標	ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学的な表現の工夫について認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。						
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎		○		○	
	評価規準	ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学的な表現の工夫について認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさや向きをもった量に着目し, 演算法則やその図形的な意味を考察する力, 図形や図形の構造に着目し, それらの性質を統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価		
第2学期 中間 期末 まで	第1章 平面上のベクトル 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し, 成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また, ベクトルの内積について理解し, 平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 第1節 ベクトルとその演算 ・ベクトル ・ベクトルの演算 ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積				知識 技能	定期 検査等 課題 やレポ ート	
					思考 判断 表現	定期 検査等 課題 やレポ ート	
					主体的に 学習に 取り組 む態度	課題 やレポ ート 授業 での活 動	
第2学期 期末 まで	第2節 ベクトルと平面図形 ・位置ベクトル ・ベクトルの図形への応用 ・図形のベクトルによる表示				知識 ・ 技能	定期 検査等 課題 やレポ ート	
					思考 判断 表現	定期 検査等 課題 やレポ ート	
					主体的に 学習に 取り組 む態度	課題 やレポ ート 授業 での活 動	
第2学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価 規準	◎		○		○	
		・ベクトルの和と差の定義を理解し, それを図示できる。 ・ベクトルの成分表示の仕組みを理解し, 具体的なベクトルを成分表示できる。また, そのベクトルの大きさを求めることができる。 ・ベクトルの内積の定義を理解し, 内積を求めることができる。 ・点の位置を, 基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。		・点の座標とベクトルの成分の関係を, 座標平面上の図形の問題に活用できる。 ・ベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ・位置ベクトルの一意性を利用して, 線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。		・ベクトルの演算に興味をもち, 数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ・ベクトルの内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。 ・三角形の面積が内積で表されることに興味・関心をもち, 問題解決に利用しようとする。 ・様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
学年末 考查まで	第2章 空間のベクトル 平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。 ・空間の点 ・空間のベクトル ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積 ・ベクトルの図形への応用			知識 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				思考 判断 表現	定期考査等		
					課題やレポート		
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート						
	授業での活動						
第3学期	観点別 評価	知識・技能	◎	思考・判断・表現	○	主体的に学習に取り組む態度	○
		評価 規 準	・空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。	・ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。	・平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。		
			・位置ベクトルの一意性を活用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。	・空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。	・3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。		
	・座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。	・球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。	・座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。				

※「◎」特に重視する観点



令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系			
教科	数学	科目	数学C		単位	1	必修 選択	必修
使用教科書	「新編 数学C」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学C(数研出版)				
科目の目標	ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学的な表現の工夫について認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	ベクトル, 平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学的な表現の工夫について認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさや向きをもった量に着目し, 演算法則やその図形的な意味を考察する力, 図形や図形の構造に着目し, それらの性質を統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価			
第2学期 中間 期末 まで	第1章 平面上のベクトル 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し, 成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また, ベクトルの内積について理解し, 平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 第1節 ベクトルとその演算 ・ベクトル ・ベクトルの演算 ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積	知識 技能	定期 検査等		課題 やレポ ート			
			思考 判断 表現	定期 検査等		課題 やレポ ート		
				主体的 に学 習に 取 り 組 む 態 度		課題 やレポ ート		授 業 で の 活 動
第2学期 期末 まで	第2節 ベクトルと平面図形 ・位置ベクトル ・ベクトルの図形への応用 ・図形のベクトルによる表示	知識 ・ 技能	定期 検査等		課題 やレポ ート			
			思考 判断 表現	定期 検査等		課題 やレポ ート		
				主体的 に学 習に 取 り 組 む 態 度		課題 やレポ ート		授 業 で の 活 動
第2学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
		・ベクトルの和と差の定義を理解し, それを図示できる。 ・ベクトルの成分表示の仕組みを理解し, 具体的なベクトルを成分表示できる。また, そのベクトルの大きさを求めることができる。 ・ベクトルの内積の定義を理解し, 内積を求めることができる。 ・点の位置を, 基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。		・点の座標とベクトルの成分の関係を, 座標平面上の図形の問題に活用できる。 ・ベクトルの垂直条件を活用して, 与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ・位置ベクトルの一意性を利用して, 線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。		・ベクトルの演算に興味をもち, 数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ・ベクトルの内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。 ・三角形の面積が内積で表されることに興味・関心をもち, 問題解決に利用しようとする。 ・様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
学年末 考查まで	第2章 空間のベクトル 平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。 ・空間の点 ・空間のベクトル ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積 ・ベクトルの図形への応用			知識 技能	定期考查等		
					課題やレポート		
				思考 判断 表現	定期考查等		
					課題やレポート		
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート						
	授業での活動						
第3学期	観点別 評価	知識・技能	◎	思考・判断・表現	○	主体的に学習に取り組む態度	○
		評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。</li> <li>位置ベクトルの一意性を活用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。</li> <li>座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。</li> <li>空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。</li> <li>球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。</li> <li>3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。</li> <li>座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。</li> </ul>		

※「◎」特に重視する観点

# 令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系		
教科	数学	科目	数学Ⅲ		単位	1	必修 選択
使用教科書	「新編 数学Ⅲ」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学Ⅲ(数研出版)			
科目の目標	極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用しようとする態度を育てる。						
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎		○		○	
	評価規準	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする力を身につけている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価		
学年末 考查まで	第1章 関数 分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。  第2章 極限 第1節 数列の極限 数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。 第2節 関数の極限 数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		◎		○		○	
		・分数関数や無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ・数列の極限値の定義を理解している。 ・無限級数の表記について理解している。 ・不定形を解消するなど、関数の式を適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。		・分数不等式や無理不等式の解を、グラフと直線の上下関係に読み替えることができる。 ・無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べることで考察できる。 ・グラフを参考にしながら、関数の右側極限、左側極限、関数の極限の有無について考察することができる。		・不定形の数列の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとしている。 ・項を「無限に加える」ということを、数学的に定義する方法を理解しようとしている。 ・不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとしている。	
第3学期	観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価規準	◎		○		○	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系			
教科	数学	科目	数学演習β		単位	1	必修 選択	
使用教科書			補助教材等	ニューパワーオン I+A+II+B (東京書籍)				
科目の目標	問題解決の過程を振り返って、既習事項の確認を行うとともに、条件から立式し正確に解法を導く計算力や思考力を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	数学において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数学において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたりしようとする態度を養おうとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
学年末 考查まで		<ul style="list-style-type: none"> <li>式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。</li> <li>不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。</li> <li>2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</li> <li>日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。</li> </ul>	知識 技能	定期 考查等		課題やレポート		
				思考 判断 表現	定期 考查等		課題やレポート	
				主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等		授業での活動	
第3学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価規準	数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。		事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。		

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系			
教科	理科	科目	物理基礎	単位	2	必修 選択	選択	
使用教科書	「物理基礎」(数研出版)		補助教材等	新課程 リードLightノート 物理基礎 (数研出版)				
科目の目標	物体の運動や熱、波、電気などの身近な物理現象やエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、物理学的に探究する能力と態度の育成と科学的な見方や考え方を身に付ける。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解している。科学的に探究するための観察、実験に関する基本的な技能が身についている。		観察、実験などを行い、科学的に探究できる。		物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価			
					観 点	評価の手段		
第1学期 中間 考査 まで	物理量の扱い方 ・物理量の表し方やデータの扱い方を理解する。 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1, 速度 2, 加速度 3, 落下の運動 ・物体の運動が変位 $x$ 、速度 $v$ 、加速度 $a$ で表される事、等加速度直線運動におけるグラフでの表し方、正負の決め方を理解する。また、重力のみを受けた落下の運動は、重力加速度を受けた等加速度直線運動であることに気づく。 第2章 運動の法則 1, 力とそのはたらき 2, 力のつりあい 3, 運動の法則 4, 摩擦を受ける運動 5, 液体や気体から受ける力 ・物体には様々な那智からがはたらくこと、力のつり合い、運動の法則を理解する。	知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		主体的に 学習に取 組む態 度	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
			思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		振り返りシート等		
				定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		振り返りシート等		
第1学期 期末 考査 まで	第3章 仕事と力学的エネルギー 1, 仕事 2, 運動エネルギー 3, 位置エネルギー 4, 力学的エネルギーの保存 ・運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1, 熱と熱量 2, 熱と物質の状態 3, 熱と仕事 4, 不可逆変化と熱機関 ・熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。また、熱の移動、熱と仕事の変換について理解する。 第3編 波 第1章 波の性質 1, 波と媒質の運動 2, 波の伝わり方 ・直線上に伝わる波の性質について理解する。	知識 ・ 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		主体的に 学習に取 組む態 度	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
			思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動		振り返りシート等		
				定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎		思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○		
		・変位、速度、加速度の定義や正負の意味を理解している。 ・等加速度直線運動の3つの式を正しく運用できる。 ・物体にかかる力の大きさと向きを判断し、どのような運動をするか判別できる。 ・仕事やエネルギーを求めることができる。 ・波の発生原理や重ね合わせを理解できる。		・グラフ上に表された運動を解析し、それをもとに物体の運動の様子を考えることができる。 ・複数の力がかかっている場合に、それらの関係や合力について考えることができる。 ・力学的エネルギー保存を用いて、物体の運動を考えることができる。 ・波の様子をグラフから読み取ったり、グラフに表したりすることができる。		・見る、触ることができない「力」に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。 ・運動している物体がどのようなエネルギーを持っているのかに興味をもち、考えようとしている。 ・実験に主体的に取り組んでいる。		
		評価規準						

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考查まで	第2章 音 1, 音の性質 2, 発音体の振動と共振・共鳴 ・気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。 第4編 電気 第1章 物質と電気 1, 電気の性質 2, 電流と電気抵抗 3, 電気とエネルギー ・電流、電圧、抵抗の間にはオームの法則が成り立つことを理解する。また、自由電子の運動と電流の関係を理解する。 第2章 磁場と交流 1, 電流と磁場 2, 交流と電磁波 ・交流の発生、送電及び利用について、基本的なしくみを理解する。 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1, エネルギーの移り変わり 2, エネルギー資源と発電 ・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な視点から理解する。 第2章 物理学が拓く世界 1, 摩擦をコントロールする 2, エネルギーを有効利用する 3, 見えないものを見る ・「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結びついていることを理解する。	知識 技能	定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
			思考 判断 表現	定期考査等	課題やレポート	授業での活動
				主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等	課題やレポート
		振り返りシート等			振り返りシート等	振り返りシート等
		第2学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
				◎	○	○
		第2学期	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弦や気柱の振動と音の高さの関係、開口端補正について理解している。</li> <li>・オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。</li> <li>・電流が作る磁場、交流についての基礎を理解している。</li> <li>・エネルギーの種類や身近に行われているエネルギー変換について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オームの法則を理解し、I-Vグラフから金属の抵抗値を求めることができる。</li> <li>・電流と磁場の関係を説明できる。</li> <li>・直流と交流の違いを説明できる。</li> <li>・音に関する身近な問いかけについて、自分の考えを述べることができる。</li> <li>・電気回路の抵抗の接続の仕方を変えたときに起こる変化を主体的に考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音に関する身近な問いかけについて、自分の考えを述べることができる。</li> <li>・電気回路の抵抗の接続の仕方を変えたときに起こる変化を主体的に考えることができる。</li> <li>・身近な科学技術に物理学がどのように活用されているかについて興味をもっている。</li> </ul>

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系
教科	理科	科目	物理	単位	1 必修 選択
使用教科書	「物理」(数研出版)		補助教材等	リードLightノート 物理 (数研出版)	
科目の目標	「様々な運動」「波」「電気と磁気」「原子」について「物理基礎」との関連を図りながら、更に進んだ物理学的な方法で自然の事物・現象を取り扱う。また、観察、実験を通して、物理学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育てる。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
	評価規準	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能が身についている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価	
第2学期 期末 考査 まで	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1, 平面運動の速度・加速度 2, 落下の運動 ・平面内を運動する物体の運動について理解する。 第2章 剛体 1, 剛体にはたらく力のつりあい 2, 剛体にはたらく力の合力と重心 ・大きさのある物体にはたらく力のつりあいを理解する。 第3章 運動量の保存 1, 運動量と力積 2, 運動量保存 3, 反発係数 ・運動量と力積の関係、物体の衝突や分裂における運動量保存について理解する。	知識・技能	思考・判断・表現	観点	評価の手段
				定期考査等	
				課題やレポート	
				授業での活動	
定期考査等					
課題やレポート					
授業での活動					
振り返りシート等					
主体的に学習に取り組む態度	課題やレポート				
授業での活動					
振り返りシート等					
第2学期	観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
	評価規準	・平面内の運動に関する変位や速度、加速度の意味を理解し、求めることができる。 ・剛体にはたらく力のモーメントを求め、その後の運動を判断することができる。 ・運動量や力積の求め方を理解し、運動量保存則を式をたてられる。	・観測者が動く場合の運動や、斜方投射、剛体の運動の様子を説明できる。 ・運動量の変化と力積の関係式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明できる。 ・運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求め、物体の運動を説明することができる。	・落下の運動や水平投射、斜方投射、剛体のつり合い・運動について物体の運動はどのようになっているか理解しようとしている。 ・身近な物理現象と運動量、反発係数との関係を理解しようとしている。	





令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2 年	学科	普通科	類型	理系			
教科	理科	科目	化学		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「化学」(実教出版)		補助教材等	フォトサイエンス化学図録(数研出版) リードlightノート化学(数研出版)				
科目の目標	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを旨とする。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	○		◎		○		
	評価規準	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。		化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、仮説の設定、実験の計画・検証、実験レポート、提出物を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付けている。		化学的な事物・現象に対して、主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決を図り、科学的に探究しようとしている。		
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価			
第1学期 中間 期末 考査 まで	1章 物質の状態と平衡 1節 状態変化 ・物質の構造と沸点・融点の関係について、基本的概念や知識を身につけさせる。 ・状態の平衡と粒子の熱運動について、基本的な原理や知識を理解させる。 2節 固体の構造 ・結晶構造について、基本的な知識を身につけさせ、結晶とアモルファスの違いについて理解させる。				知識 技能	定期考査等 課題やレポート 作品や課題		
					思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 作品や課題		
					主体的に 学習に 取り組む 態度	定期考査等 課題やレポート 作品や課題		
第1学期 期末 考査 まで	3節 気体の性質 ・ボイル・シャルルの法則を理解させ、知識として身につけさせる。 ・気体の状態方程式の原理を理解させ、関連問題を解かせる。				知識 技能	定期考査等 課題やレポート 作品や課題		
					思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 作品や課題		
					主体的に 学習に 取り組む 態度	定期考査等 課題やレポート 作品や課題		
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	評価 規準	◎		○		○		
		・物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解している。また、状態変化に伴うエネルギーの出入りおよび状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。		・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。		・物質の気体、液体、固体の状態変化を、日常生活や社会に関連させ、探究、考察しようとしている。また、状態変化の現象について、粒子の運動と関連づけて探究しようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	4節 溶液 ・溶解のしくみについて、基本的原理と知識を身につけさせる。 ・溶解度の定義や法則を理解させる。 ・沸点上昇、蒸気圧降下、浸透圧などの溶液の性質について、その基本原理と知識を身につけさせる。 ・コロイド溶液について、その基本概念と性質を実験を通して理解し、知識として身につけさせる。 ・それぞれの実験において、適切な実験操作を身に付けさせる。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート 作品や課題
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート 作品や課題					
主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等				
	課題やレポート 作品や課題				
第2学期 期末 考査まで	第2章 物質の変化と平衡 1節 化学反応と熱・光エネルギー ・化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解させる。			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート 作品や課題
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート 作品や課題					
主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等				
	課題やレポート 作品や課題				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・結晶格子の概念について、身近な物質を例にしたり、結晶構造のモデルを用いたりして、特徴を観察する技能を身につけている。	・固体の構造や希薄溶液の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明することができる。	・気体、液体、固体が示すさまざまな性質に着目し、共通の事象について規則性を予測している。	
学年 末 考査まで	2節 化学反応と電気エネルギー ・外部から加えられた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解させる。その反応に関与した変化量と電気量との関係を理解させる。 ・電池は酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出すしくみであることを理解させる。			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート 作品や課題
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート 作品や課題					
主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等				
	課題やレポート 作品や課題				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こること、また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を理解する。	・化学反応に伴って電気エネルギーの出入りがあること、温度・濃度・触媒の影響などを受けることを、代表的な物質の反応や性質の比較から推論することができる。また、導き出した考えを的確に表現することができる。	・化学反応に伴って電気エネルギーの出入りがあること、温度・濃度・触媒の影響などによって速い反応と遅い反応があることを、意欲的に探究・考察している。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系			
教科	理科	科目	生物基礎	単位	2	必修 選択	必修	
使用教科書	「高等学校生物基礎」 (第一学習社)		補助教材等	スタディアップノート生物基礎 (数研出版)				
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	○	◎	○				
	評価規準	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。				
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第1学期 中間 期末 考査 まで	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 ・生物を比較し生物は多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であり、原核細胞と真核細胞があることを内部構造と共に理解させる。  第2節 生物とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要から理解させ、それらがATPの合成反応であると理解させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等	
					定期考査等	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
					定期考査等	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
第1学期 期末 考査 まで	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造 ・DNAの構造や性質、関係性と、体細胞分裂の際に遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。  第2節 遺伝情報とタンパク質 ・生命現象とタンパク質の関係を通して、タンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成される仕組みと、遺伝子は常に細胞内で発現しているわけではないことを理解させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等	
					定期考査等	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
					定期考査等	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
		◎	○	○				
		・すべての生物は共通した特徴をもつことを理解している。 ・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解している。 ・転写と翻訳の過程の概略を理解している。	・生物にみられる特徴について説明できる。 ・光合成や呼吸において、ATPが利用される過程と、担う役割について説明できる。 ・塩基の相補性に着目し、DNAの複製のしくみを説明できる。	・資料からわかることを積極的に読み取るようとしている。 ・DNAの複製について、資料から読み取れることを積極的に説明しようとしている。 ・塩基配列とアミノ酸配列の関係を、資料から積極的に読み取るようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考查まで	<p>第3章 ヒトのからだの調節</p> <p>第1節 情報の伝達と体内環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。</li> <li>体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、調節ができなくなったときに発症する疾患について理解させる。</li> </ul> <p>第2節 免疫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免疫の仕組みと液性免疫や細胞性免疫について理解させる。</li> <li>身近な免疫疾患を取り上げ、一次応答と二次応答について理解させる。</li> </ul>			知識 技能	課題やレポート	
					思考 判断 表現	授業での活動
						振り返りシート等
定期考査等						
第2学期 期末 考查まで	<p>第4章 植生と遷移</p> <p>第1節 植生と遷移</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物(植生)が存在することを理解させる。</li> <li>植生はそれを取り巻く環境から影響を受けて変化(遷移)していくことを理解させる。</li> </ul> <p>第2節 バイオーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気温や降水量の違いにより地球上には多くのバイオームが成立し、それらは遷移の結果、森林・草原・荒原となることを理解させる。</li> </ul>			知識 ・ 技能	課題やレポート	
					思考 判断 表現	授業での活動
						振り返りシート等
定期考査等						
学年末 考查まで	<p>第5章 生態系とその保全</p> <p>第1節 生態系と植物の多様性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系における生物の種多様性と生物間の関係性を物質とエネルギーの移動と関連付けて理解させる。</li> </ul> <p>第2節 生態系のバランスと保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させ、生態系保全の重要性を認識し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。</li> </ul>			知識 技能	課題やレポート	
					思考 判断 表現	授業での活動
						振り返りシート等
定期考査等						
第3学期	<p>第3章 ヒトのからだの調節</p> <p>第1節 情報の伝達と体内環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。</li> <li>体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、調節ができなくなったときに発症する疾患について理解させる。</li> </ul> <p>第2節 免疫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免疫の仕組みと液性免疫や細胞性免疫について理解させる。</li> <li>身近な免疫疾患を取り上げ、一次応答と二次応答について理解させる。</li> </ul>			知識 ・ 技能	課題やレポート	
					思考 判断 表現	授業での活動
						振り返りシート等
定期考査等						
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・体液の種類と関係について理解している。 ・生体防御には、皮膚などによる防御と免疫があることを理解している。 ・植生、相観、優占種について理解している。	・体内環境の調節では、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。 ・生体防御について物理的・化学的に病原体の侵入を防ぐ機構と免疫に分けて説明できる。 ・植生と降水量、平均気温を示したグラフが読み取れる。	・二次応答によって同じ感染症にかかりにくいことを資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。 ・植生ごとの環境の比較の観察に積極的に取り組もうとしている。		
		・生態系の構造を理解している。 ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解している。	・各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。 ・生態系を保全する意義を説明できる。	・上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取ろうとしている。 ・河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。		
観点別 評価		知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○		

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系
教科	理科	科目	生物基礎	単位	2 必修 選択
使用教科書	「高等学校生物基礎」 (第一学習社)		補助教材等	セミナー生物基礎+生物 (第一学習社)	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎	○	○	
	評価規準	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
第1学期 中間 期末 まで	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 ・生物を比較して多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来する事を理解させる。 ・細胞は生物に共通し、原核細胞と真核細胞について内部構造と共に理解させる。 第2節 生物とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要を理解させ、ATPの合成反応であると理解させる。 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造 ・DNAの構造や性質と関係性と、分裂の際に遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。 第2節 遺伝情報とタンパク質 ・生命現象とタンパク質の関係を通し、DNAの遺伝情報に基づくタンパク質合成の仕組みと、遺伝子の細胞内での発現を理解させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	
				課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等	
				課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等	
第1学期 期末 まで	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 情報の伝達と体内環境の維持 ・生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。 ・体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、調節ができなくなったときに発症する疾患について理解させる。 第2節 免疫 ・免疫の仕組みと液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・身近な免疫疾患を取り上げ、一次応答と二次応答について理解させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	
				課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等	
				課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等	
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規準	・全ての生物は共通した特徴を持つことを理解している。 ・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解し、転写と翻訳の概略を理解している。 ・体液の種類と関係について理解している。 ・生体防御には、皮膚などによる防御と免疫があることを理解している。		・生物の特徴について説明できる。 ・光合成や呼吸においてATPが利用される過程と、その役割を説明できる。 ・塩基の相補性に着目し、DNAの複製のしくみを説明できる。 ・体内環境の調節では、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。 ・生体防御について物理的・化学的に病原体の侵入を防ぐ機構と免疫に分けて説明できる。	
		・資料から分かる事を積極的に読み取ろうとしている。 ・DNAの複製について資料から読み取れる事を積極的に説明しようとしている。 ・塩基配列とアミノ酸配列の関係を資料から積極的に読み取ろうとしている。 ・二次応答により同じ感染症にかかりにくい事を資料から読み取り積極的に説明しようとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期中間 考查まで	第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 ・生物は環境からの影響を受けつつ存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 ・植生はそれをとり巻く環境から影響を受けて遷移することを理解させる。 第2節 バイオーム ・気温や降水量の違いにより多くのバイオームが成立し、それらは遷移の結果、森林・草原・荒原となることを理解させる。 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と植物の多様性 ・生態系における生物の種多様性と生物間の関係性を物質とエネルギーの移動に関連付けて理解させる。 第2節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスは人為的攪乱によりそれが崩れる場合があることを理解させ、生態系保全の重要性を認識し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。	知識 技能	課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等		
			思考 判断 表現		課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考査等
					主体的に 学習に取り 組む態度	
		第2学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
				◎	○	○
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・植生、相観、優占種について理解している。</li> <li>・生態系の構造を理解している。</li> <li>・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植生と降水量、平均気温を示したグラフが読み取れる。</li> <li>・各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。</li> <li>・生態系を保全する意義を説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植生ごとの環境の比較の観察に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取るようとしている。</li> <li>・河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。</li> </ul>

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系		
教科	理科	科目	生物		単位	1	必修 選択
使用教科書	「高等学校 生物」 (啓林館)		補助教材等	セミナー生物基礎+生物 (第一学習社)			
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。						
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎		○		○	
	評価規準	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。		自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。		自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価		
第2学期期末 期末 考査 まで	第1部 生物の進化 第1章 生物の進化…生命の起源と進化の過程を地球環境の変化に関連させながら概要をつかませる。 第2章 有性生殖と遺伝的多様性…減数分裂による遺伝子の分配と受精によって遺伝的に多様な子孫が生じることを理解し、遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 第3章 進化のしくみ…進化の仕組みを学び、細胞の構造や構成成分、形態、生殖、発生、遺伝子の構造など生物のもつ様々な特徴の比較から生物の系統関係を具体例を通して探究させる。				知識・技能	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等	
					思考判断表現	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等	
					主体的に学習に取り組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
	観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		◎		○		○	
	評価規準	・減数分裂とともに遺伝子の分配について理解し、遺伝子の変化が子に伝わる様子を考察できる。 ・現在の生物分類と系統を理解し、その分類の視点がどこに置かれていたのかを把握する。		・塩基配列に生じる突然変異が、生物の形質にもたらす変化を見いだして理解できる。 ・霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、違いや地球史との関連を表現することができる。		・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとしている。	





令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2年	学科	普通科	類型	共通			
教科	保健体育	科目	体育		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等学校保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)				
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに挑戦するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	・運動の多様性や体力の必要性を理解している。 ・必要となる技能を身につけている。		・課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を身につけている。		・運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を身につけている。 ・健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観 点	評 価 の 手 段		
第1学期 中間 考查まで	<b>体づくり運動</b> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解し、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、体づくり運動に主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。  <b>陸上競技</b> ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	知識 技能	授業での活動		実技テスト等			
			思考 判断 表現	課題やレポート		振り返りシート等		
				授業での活動		実技テスト等		
課題やレポート		振り返りシート等						
主体的に 学習に 取り組む 態度	授業での活動		実技テスト等					
	課題やレポート		振り返りシート等					
	振り返りシート等		振り返りシート等					
第1学期 期末 考查まで	<b>陸上競技</b> ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>ダンス</b> ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>武道（柔道・剣道）</b> ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>球技</b> ア.ゴール型：フットサル イ.ネット型：バレーボール ウ.ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>体育理論</b> ①スポーツにおける技能と体力 技術と技能の違いについて説明できる。 ②スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程を理解し、各段階に応じた練習方法を考えることができるようにする。	知識 ・ 技能	授業での活動		実技テスト等			
			思考 判断 表現	課題やレポート		授業での活動		
				振り返りシート等		振り返りシート等		
授業での活動		振り返りシート等						
主体的に 学習に 取り組む 態度	課題やレポート		振り返りシート等					
	振り返りシート等		振り返りシート等					
	振り返りシート等		振り返りシート等					
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価規準	・体力の構成要素、実生活への取り入れ方、役立て方を理解している。 ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。		・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。		・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期中間 考查まで	<b>ダンス</b> ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>武道（柔道・剣道）</b> ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>球技</b> ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、バドミントン ウ.ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。			知識 技能	授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等
					思考 判断 表現	
				主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
第2学期期末 考查まで	<b>ダンス</b> ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>武道（柔道・剣道）</b> ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>球技</b> ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、卓球 ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>体育理論</b> ③技能の上達過程と練習 体の動きの仕組みについて説明できるようにする。 ④効果的な動きのメカニズム 体力と技能の関係を理解し、それらの高め方を説明できるようにする。			知識 ・ 技能	授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等
					思考 判断 表現	
				主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。		
学年末 考查まで	<b>球技</b> ア.ゴール型：ユニホック、バスケットボール イ.ネット型：バドミントン、卓球 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 <b>体育理論</b> ⑤体力トレーニング ・体力の構成要素について理解し、自己の課題にあったトレーニング方法、回数、強度を考えることができるようにする。 ⑥運動やスポーツでの安全の確保 ・運動によるけがや病気の予防方法を説明できるようにする。			知識 技能	授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等
					思考 判断 表現	
				主体的に 学習に取り 組む態度		実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 ・スポーツの効果的な学習の仕方を理解している。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。		

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通			
教科	保健体育	科目	保健		単位	1	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)		補助教材等	現代高等保健ノート (大修館書店)				
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
第1学期 中間 考査まで	3. 生涯を通じる健康 ①ライフステージと健康 ②思春期と健康 ③性意識と性行動の選択 ④妊娠・出産と健康  ・思春期に起こる身体的変化や性意識、妊娠などについて理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。	知識 技能	知識・技能		思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度		
			◎			○		
			定期考査等 授業での活動			授業での活動 振り返りシート等		
第1学期 期末 考査まで	⑤避妊法と人工妊娠中絶 ⑥結婚生活と健康 ⑦中高年期と健康  ・避妊法や人工妊娠中絶、加齢に伴う心理的な変化や身体的な変化について理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。	知識 ・ 技能	知識・技能		思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度		
			◎			○		
			定期考査等 授業での活動			授業での活動 振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
		評価規準 ・妊娠や加齢に伴う身体的精神的变化などについて、理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。		評価規準 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。		評価規準 ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	⑧働くことと健康 ⑨労働災害と健康 ⑩健康的な職業生活  ・労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解させる。  <b>4. 健康を支える環境づくり</b> ①大気汚濁と健康 ②水質汚濁、土壌汚染と健康  ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解させる。	知識 技能	定期考査等	授業での活動	
			思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第2学期 期末 考查まで	③環境と健康に関わる対策 ④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全性 ⑥食品衛生にかかわる活動  ・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準設定され、それに基づいて行われていることを理解させる。 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解させる。	知識 ・ 技能	定期考査等		授業での活動
			思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・大気汚染や水質汚染、食品衛生などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	
学年 末 考查まで	⑦保健サービスとその活用 ⑧医療サービスとその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪健康に関する環境づくりと社会参加 ・生涯を通じて健康を保持増進するために、各医療機関や医薬品の活用方法について正しく理解させる。 ・我が国や世界で行われている健康課題に対する様々な保健活動や社会的対策、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりについて理解させる。	知識 技能	定期考査等	授業での活動	
			思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・医療制度や医療機関などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系				
教科	芸術	科目	音楽Ⅱ		単位	2	必修 選択		
使用教科書	MOUSA2 (教育芸術社)		補助教材等						
科目の目標	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができ、主体的・協働的に音楽活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する真珠を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにさせる。								
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎		○		○			
	評価規準	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。		個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。		主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)				観点別評価				
					観 点	評価の手段			
第1学期 中間 考査まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱 「夏は来ぬ」、 「Nel cor più non mi sento」 歌唱を通して、歌唱技能の基本を学んだり、ハーモニーを感じ取ったりして、音楽の良さや美しさを味わう。また歌詞の意味を自ら考え、正しい意味を理解し、表現活動の際に表現力を高める。</li> </ul>	知識 技能			知識 技能	実技テスト等 授業での活動			
			思考 判断 表現			思考 判断 表現	授業での活動 実技テスト等		
				主体的に 学習に取 組む態度					主体的に 学習に取 組む態度
第1学期 期末 考査まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>器楽 「ハンドベル」 ハンドベルの奏法や響きを知り、アンサンブルを楽しむ。</li> <li>鑑賞 「フィンランディア」 曲の構成を理解する。また、歴史的背景から曲想をつかみ、自分なりに評価して、曲のよさや美しさを味わう。</li> </ul>	知識 技能			知識 技能	実技テスト等 小テスト 授業での活動			
			思考 判断 表現			思考 判断 表現	授業での活動 小テスト 課題やレポート		
				主体的に 学習に取 組む態度					主体的に 学習に取 組む態度
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎			思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○		
		評価 規準	・ 作曲者や曲が作られた背景について理解している。 ・ ハンドベルの技術について学んでいる。 ・ 曲の構成や作曲家、曲の背景などを理解している。		・ 歌曲の歌詞の意味を自ら考えている。 ・ ハンドベルの演奏技術を身に付けて工夫して演奏している。 ・ 歴史的背景や音色、旋律などから、曲に対する評価をしている。		・ 歌唱活動に取り組んだり、歌詞の意味を考えたり、ハンドベルを演奏したり、また鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期中間 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽 「リコーダー」 管楽器の音が出る仕組みや、演奏方法や技能を身に付け、奏法によって音色や響きの違いが生み出されることを理解する。 リコーダーアンサンブルに挑戦し、自身のメロディーを演奏しながらハーモニーを聴き、音楽の良さや美しさを感じ取る。</li> <li>・歌唱 「糸」 日本語の発音や歌詞の意味を意識して表現する。</li> <li>・ソルフェージュ 「音を聞き取る」 ピアノで弾いた音を聞き取る練習をする。</li> </ul>	知識 技能	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等	
			思考 判断 表現	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等
				小テスト		
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動	実技テスト等		振り返りシート等		
	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等			
	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等			
第2学期期末 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞 「《和声と創意の試み》第1集〈四季〉から〈冬〉」、「ブエノスアイレスの冬」 曲名にある「冬」に着目して、それぞれの曲を評価し、イメージした背景を比較する。</li> </ul>	知識 ・ 技能	授業での活動	振り返りシート等	課題やレポート	
			思考 判断 表現	授業での活動	課題やレポート	振り返りシート等
				授業での活動	課題やレポート	振り返りシート等
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動	課題やレポート		振り返りシート等		
	授業での活動	課題やレポート	振り返りシート等			
	授業での活動	課題やレポート	振り返りシート等			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの音が出る仕組みについて理解している。</li> <li>・リコーダーの演奏方法が技術を身に付けている。</li> <li>・曲にふさわしい発声や言葉の発音などの技術を身に着けている。</li> <li>・音楽の特徴や歴史的背景を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の演奏を聴きながら演奏し、音楽のよさや美しさを感じ取っている。</li> <li>・歌詞からイメージし、個性豊かに音楽表現を創意工夫している。</li> <li>・曲に対する評価とその根拠について考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーを演奏する活動や歌唱、鑑賞に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>		
学年末 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱 「からたちの花」、「蛍の光」 「からたちの花」を通して、頻繁に変化する拍子を意識しながら、曲の情景や心情の変化をイメージして創意工夫して表現する。 「蛍の光」が「蛍雪の功」のことわざを由来にしていることについて理解し、歌詞の意味を自ら考えながら理解する。また、卒業式での歌唱に挑む。</li> <li>・楽典 「調号と主音」、「関係調」 調号や主音、関係調を理解することで、歌唱や鑑賞の際に生かすことができる。また、音楽の基礎を理解して、より学びを深めることができる。</li> </ul>	知識 技能	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等	
			思考 判断 表現	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等
				小テスト		
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動	実技テスト等		振り返りシート等		
	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等			
	授業での活動	実技テスト等	振り返りシート等			
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造、歌詞との関わりを理解している。</li> <li>・「調号と主音」「関係調」を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想や歌詞から、どのように歌うかについて考え、表現している。</li> <li>・「調号と主音」「関係調」を理解した後、応用して考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の意味を考えたり、表現したりする活動に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・楽典の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>		

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系					
教科	芸術	科目	美術Ⅱ		単位	2	必修 選択	選択		
使用教科書	「美術2」(光村図書)		補助教材等							
科目の目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めさせ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えさせ、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。主体的に美術の創造的な諸活動に取り組みせ、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。									
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	重点	○		◎		○				
	評価規準	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表わしている。		・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		・主体的に美術の創造的な諸活動に取り組みようとしている。				
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価					
					観点	評価の手段				
第1学期 中間 考査 まで	【表現・鑑賞】デザイン 伝わるポスターデザイン ・与えられたテーマに沿ったポスターを制作する。 ・形や色を工夫して、言いたいことが伝わるグラフィックを考えることができるようになる。	知識 技能	作品や課題		振り返りシート等			授業での活動		
			思考 判断 表現	作品や課題		振り返りシート等			課題やレポート	
				主体的に 学習に 取り組む 態度		振り返りシート等		課題やレポート		
第1学期 期末 考査 まで	【表現・鑑賞】デザイン 多目的トイレのピクトグラム ・パワーポイントを簡易ベクターグラフィックソフトとして活用し、多目的トイレのピクトグラムを制作する。 ・多目的トイレの利用者を列挙し、その利用者だとひと目でわかるピクトグラムを制作する。 ・配色はユニバーサルデザインを考慮し、多目的トイレとして適切な色を選択する。 ・完成後はパワーポイントを元に自分のデザインをプレゼンテーションし、生徒同士で作品を鑑賞する。 ・利用目的がひと目でわかるグラフィックデザインと、他者のデザインの発想や構想の独自性と表現の工夫などを感じ取ることができるようになる。	知識 ・ 技能	作品や課題		振り返りシート等			授業での活動		
			思考 判断 表現	作品や課題		振り返りシート等			課題やレポート	
				主体的に 学習に 取り組む 態度		振り返りシート等		課題やレポート		
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		○		◎		○				
		評価規準	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。		・目的や条件などを基に、人と社会をつなぐデザインの働きについて考え、主題を生成している。 ・社会におけるデザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。		・主体的にデザインの表現の創造的な諸活動に取り組みようとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第2学期中間考査まで	<b>【鑑賞】美術史</b> 現代アートの手法を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦以降の美術について概観し、身近な素材や廃物などを利用して作られた現代アートの手法を学ぶ。</li> <li>さまざまな作品を鑑賞し、現代アート独自の表現手と、そのよさを感じ取ることができるようになる。</li> </ul>			知識 技能	作品や課題		
					振り返りシート等		
				授業での活動			
第2学期期末考査まで	<b>【表現】彫刻</b> コンセプチュアルな美術表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>2学期前半で学んだことを手掛かりに、身近な素材や廃物などを利用してコンセプチュアルな現代アート作品を制作する。</li> <li>単一の素材にとらわれることなく、身近な素材や廃物あるいはテキストなども包含したコンセプチュアルな現代アート作品を作れるようになる。</li> </ul>			知識 ・ 技能	作品や課題		
					振り返りシート等		
				授業での活動			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。		
						評価 規 準	・自然や自己、人と社会のつながりなどを深く見つけ、身近な素材や廃物などの特性を生かして主題を生成している。 ・コンセプチュアルな現代アート表現について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。
<b>【表現・鑑賞】映像メディア表現</b> オリジナル写真集を作る <ul style="list-style-type: none"> <li>絞りと被写界深度の関係や、シャッタースピードとISO感度の調整による適切な光量の設定など、写真の基礎となる知識及び技能を学ぶ。</li> <li>絵画と写真の構図における共通点と相違点を学び、個性豊かで創造的な表現ができるようになる。</li> <li>最初に校内で撮影ポイントを複数探し出す。次に、コンピュータソフトウェアの写真集作成機能を活用し複数の写真を編集することで写真集を制作する。</li> <li>完成後は生徒同士で作品を相互鑑賞する。</li> <li>ストーリー性のある映像メディア作品の制作と、他者の発想や構想独自性と表現の工夫などを感じ取ることができるようになる。</li> </ul>	知識 技能	作品や課題					
		振り返りシート等					
	学年末考査まで	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	
評価 規 準							・自然や自己、人と社会のつながりなどを深く見つけ、映像メディアの特性を生かして主題を生成している。 ・映像表現の視覚的な要素などの効果的な生かし方について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。
	<b>【表現・鑑賞】映像メディア表現</b> オリジナル写真集を作る <ul style="list-style-type: none"> <li>絞りと被写界深度の関係や、シャッタースピードとISO感度の調整による適切な光量の設定など、写真の基礎となる知識及び技能を学ぶ。</li> <li>絵画と写真の構図における共通点と相違点を学び、個性豊かで創造的な表現ができるようになる。</li> <li>最初に校内で撮影ポイントを複数探し出す。次に、コンピュータソフトウェアの写真集作成機能を活用し複数の写真を編集することで写真集を制作する。</li> <li>完成後は生徒同士で作品を相互鑑賞する。</li> <li>ストーリー性のある映像メディア作品の制作と、他者の発想や構想独自性と表現の工夫などを感じ取ることができるようになる。</li> </ul>	思考 判断 表現	作品や課題				
振り返りシート等							
第3学期		観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・造形の要素の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	
	評価 規 準						・自然や自己、人と社会のつながりなどを深く見つけ、映像メディアの特性を生かして主題を生成している。 ・映像表現の視覚的な要素などの効果的な生かし方について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。
授業での活動		作品や課題					

※「◎」特に重視する観点



令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	文系		
教科	芸術	科目	書道Ⅱ		単位	2	必修 選択
使用教科書	書Ⅱ（東京書籍）		補助教材等				
科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成する。						
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎		○		○	
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の実現の方法や形式、書表現の多様性について理解を深めている。</li> <li>書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいた表現について構想し工夫している。</li> <li>作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</li> </ul>		主体的に書の実現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。	
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価		
第1学期 中間 考査まで	○篆刻 ・印の歴史と近現代の印人の印について理解を深める。 ・姓名印を制作し、篆刻の表現技法を理解する。  ○仮名の書 【古筆臨書】 ・平安時代の古筆の変遷を学び、仮名の書の美の特徴を理解する。 ・臨書や鑑賞の学習により、さまざまな古筆の用筆、運筆、構成を学び、創意工夫のある表現の技能を身に付ける。 ・仮名の書の学習を通して、日本の伝統文化を理解し、日本人の美意識について考える。	知識 技能	観点		評価の手段		
			思考 判断 表現	作品や課題		振り返りシート等	
				主体的に 学習に 取り組む 態度	授業での活動		振り返りシート等
第1学期 期末 考査まで	仮名の創作 ・今まで学習した平仮名、変体仮名、連綿のさまざまな表現技法を学び、自身の作品制作に生かす。 ・用具、用材や形式、紙面構成などを工夫し、作品を制作する。	知識 ・ 技能	作品や課題		小テスト		
			思考 判断 表現	作品や課題		振り返りシート等	
				主体的に 学習に 取り組む 態度	授業での活動		振り返りシート等
第1学期	観点別 評価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		◎		○		○	
		評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の書を構成する様々な要素について理解している。</li> <li>古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。</li> <li>墨継ぎや散らし書き等による全体の構成の技能を理解し、身に付けている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に仮名の書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期中間考査まで	○漢字の書 【隷書】 ・隷書の変遷を知る。 ・臨書や鑑賞の学習により、さまざまな書風の隷書古典の用筆、運筆、結構を学び、創意工夫のある表現の技能を身に付ける。 【草書】 ・草書の変遷を知り、草書表現の技能を身に付ける。 ・率意の書と用意の書について学び、それぞれの美しさや表現の魅力について話し合い、鑑賞力を高める。			知識 技能	作品や課題
					思考 判断 表現
				主体的に 学習に取り 組む態度	
第2学期期末考査まで	○漢字仮名交じりの書 ・思いとことばと書の表現の関係について考え、作品を構想する。 ・自らの思いや感動を表現する語句を選び、作品を構想する。 ・用具・用材や、作品の形式、紙面構成などを工夫し、作品を制作する。				知識 ・ 技能
				思考 判断 表現	
					主体的に 学習に取り 組む態度
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・古典の書を構成する様々な要素について理解している。 ・古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・変化や調和等による全体の構成の技能を身に付けている。	・表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 ・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。	主体的に書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。	
学年末考査まで	・自己の表現の意図やねらいを達成するために、漢字や仮名の古典を生かした表現を工夫する。 ・近現代の漢字仮名交じりの書作品を分析的に鑑賞し、感じたことを話し合い、鑑賞力を高める。 ○硬筆 ・日常生活で使う硬筆での練習 ○刻字 ・刻字作品を制作し、立体的な書表現について理解を深める。			知識 技能	作品や課題
					思考 判断 表現
				主体的に 学習に取り 組む態度	
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素について理解している。 ・目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能を身に付けている。 ・漢字と仮名の調和による全体の構成の技能を身に付けている。	・感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。 ・現代に生きる創造的な表現について構想し工夫している。	主体的に書の創造的な表現の学習活動に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通			
教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位	4	必修 選択	必修	
使用教科書	「BIG DIPPER English Communication II」 (教研出版)		補助教材等					
科目の目標	英文の内容に関する話題や身近な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、 ・必要な情報を読んだり聞いたりして、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。また、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	英文の内容に関する話題や身近な話題について、読んだり聞いたりした話の展開や話し手の意図を把握することができる知識を身に付けている。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続ける技能、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる知識、技能を身に付けている。		・英文の内容に関する話題や身近な話題について、読んだり聞いたりした話の展開や話し手の意図を把握している。 ・情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続けたり、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えている。		・英文の内容に関する話題や身近な話題について、読んだり聞いたりした話の展開や話し手の意図を把握しようとしている。 ・情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続けたり、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えようとしている。		
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価			
					観点	評価の手段		
第1学期 中間 期末 考査 まで	LESSON 1 Why Don't You Come to School in Pajamas? ・本文の内容（パジャマデーのような海外のユニークな学校行事など）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて英文の内容に関しての自分の意見や読み取った情報をペアに伝え合う。受動態や不定詞、〈助動詞+be+過去分詞〉の用法について復習をする。  LESSON 2 Is Seeing Believing? 本文の内容（歌川国芳やエッセイのだまし絵、大阪豊中市のとりくみなど）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて英文の内容に関しての自分の意見を書く。関係代名詞の限定用法、関係代名詞の継続用法、現在完了、過去完了の用法について復習する。				知識 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		
						思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動	
							主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動
第1学期 期末 考査 まで	LESSON3 Do You Get Enough Sleep? 本文の内容（睡眠の重要性や睡眠関連商品など）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての自分の意見をペアに伝え合う。仮定法過去、関係代名詞what、関係副詞when、関係副詞whereの用法について復習する。  LESSON4 本文の内容（英会話に関する2つの異なる考え方やELFなど）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての自分の意見を書いて、発表する。関係代名詞の継続用法、SV0102（02 = that節）について学び、関係副詞whyについて復習する。				知識 ・ 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		
						思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動	
							主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
		◎		○		○		
	評価規準	・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、一定の支援を活用しながら事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。		・本文全体の理解を深めるために、各Partの内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。		・本文全体の理解を深めるために、各Partの内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価					
				観 点	評価の手段				
第2学期中間 考查まで	<p>LESSON 5 Universal Design: Convenient for All 本文の内容（ユニバーサルデザインの照明スイッチやピクトグラム、その課題など）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての自分の意見や情報をまとめ、ペアで伝え合う。現在分詞の分詞構文の復習、進行形の受動態（be動詞+being+過去分詞）、関係副詞whereの継続用法、形式目的語itの用法について学ぶ。</p> <p>LESSON 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer 本文の内容（81歳で初めてゲームアプリを開発した若宮正子さんやその活動）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての自分の意見を書いて伝える。SVC（C=現在分詞/過去分詞）、受動態の分詞構文、（助動詞+have+過去分詞）、SVOC（C=過去分詞）の用法について学ぶ。</p>			知識 技能	定期考査等				
					実技テスト等				
				課題やレポート					
第2学期期末 考查まで	<p>LESSON 7 Learning from Nature 本文の内容（生物をヒントにして開発された電化製品や飛行機など）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての自分の意見や情報をまとめ、ペアで伝え合う。省略、動名詞の意味上の主語、未来進行形（will be+ing）、完了形の不定詞（to have+過去分詞）の用法について学ぶ。</p> <p>LESSON 8 The Wisdom of Preserving Food 本文の内容（乾物、缶詰、発酵食品など）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての情報やまとめ、自分の考えを発表する。仮定法過去完了（as if+S'+仮定法過去）、Without ~の用法について学ぶ。</p>			知識 ・ 技能	定期考査等				
					実技テスト等				
				課題やレポート					
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	<p>・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、一定の支援を活用しながら事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。</p> <p>・本文全体の理解を深めるために、各Partの内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。</p> <p>・本文全体の理解を深めるために、各Partの内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。</p>				
						評価 規 準	◎	○	○
学年末 考查まで	<p>LESSON 9 The Sharing economy: Something for Everyone? 本文の内容（シェアリングエコノミー）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての情報やまとめ、自分の考えを発表する。未来完了（will have+過去分詞）、無生物主語構文（enable+0（人）+to-不定詞）（make+0（人）+原形不定詞）、SVC（C = that節）の用法について学ぶ。</p> <p>LESSON 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 本文の内容（コンクリートの歴史や、世界の砂不足など）についての英文を読み、概要を捉える。学習した語句や文法事項を用いて、英文の内容に関しての情報やまとめ、自分の考えを発表する。関係副詞whenの継続用法、複合関係代名詞whatever、倒置の用法について学ぶ。</p>			知識 技能	定期考査等				
					実技テスト等				
				課題やレポート					
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	<p>・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、一定の支援を活用しながら事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。</p> <p>・本文全体の理解を深めるために、各Partの内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。</p> <p>・本文全体の理解を深めるために、各Partの内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。</p>				
						評価 規 準	◎	○	○

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通					
教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ		単位	2	必修 選択	必修		
使用教科書	be English Logic and Expression II Clear (いいずな書店)		補助教材等	総合英語 be English Grammar30 総合英語 be English Grammar 30 Workbook (いいずな書店)						
科目の目標	言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現方法を工夫し、伝える能力を養う。									
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎		○		○				
	評価規準	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既知の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念として理解したり、技能を習得したりしている。		知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけている。		知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。				
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価					
第1学期 中間 期末 まで	Lesson1 Your Interests 趣味やクラブ活動に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。動詞の時制について学び、時や状況に応じて動詞の時制を正しく使えるよう学習をする。自分の趣味やクラブ活動について相手に伝える。 Lesson2 Your Daily Life 日常生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。自分の日常生活についてペアで情報を交換する。不定詞（名詞用法）・動名詞・名詞節について学び、伝えたいことに応じて、不定詞・動名詞・名詞節を正しく使うことができるよう学習する。 Lesson 3 Your School Life 学校生活に関する文章を理解する。学校生活についてALTに紹介する文章を書く。助動詞について学び、伝えたい意味に応じて助動詞を正しく使うことができるよう学習する。	知識 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動 課題やレポート		主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
		知識 ・ 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動 課題やレポート		主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
		知識 ・ 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動 課題やレポート		主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
第1学期 期末 まで	Lesson 4 Media Literacy ソーシャルメディアに関する文章を読んだり聞いたりして理解する。ソーシャルメディアの現状をまとめた文章を書く。形容詞のはたらきや分詞の形容詞用法について学び、伝えたい意味に応じて適切な形容詞を用いて文を作ることができるよう学習する。 Lesson 5 Helping Others ボランティア活動についての文章を理解する。自分のボランティア活動についてグループで情報を交換する。さまざまな表現を使った形容詞句について学び、伝えたい意味に応じて適切な形容詞句を用いて文を作ることができるよう学習する。 Lesson 6 Introducing Your Town 自分の住む町や地域についての文章を理解し、自分の住む町や地域について紹介する。関係代名詞・関係副詞について学び、関係代名詞・関係副詞を用いて文を作ることができるよう学習する。	知識 ・ 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動 課題やレポート		主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
		知識 ・ 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動 課題やレポート		主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
		知識 ・ 技能	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 授業での活動 課題やレポート		主体的に 学習に 取り組む 態度	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
		◎		○		○				
	評価規準	・習得すべき知識や重要な概念を理解し、既知の技能と関連付けたり活用したりすることができる。 ・学んだ知識を用いて、本文の内容を把握し、事実や自分の考えを書いたり話したりして伝える技能を身につけている。		・学習した知識を用いて、話者や筆者の文章の意図を理解することができる。 ・本文の内容について、相手に伝わるように自分の意見を話したり、書いたりすることができる。		・知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	Lesson 7 Languages of the World 世界の言語についての文章を理解し、世界の言語について調べた情報を交換する。副詞のはたらきについて学び、伝えたい意味に応じて適切な副詞を用いて文を作ることができるよう学習する。 Lesson 8 Imagining the Future 想像についての文章を理解し、想像について自分の考えを書く。不定詞（副詞用法）・分詞について学び、伝えたい意味に応じて不定詞・分詞を正しく使うことができるよう学習する。 Lesson 9 Happiness and Stress 幸福・ストレスについての文章を理解し、幸福やストレスについて意見を伝え合う。さまざまな意味を表す副詞節について学び、伝えたい意味に応じて適切な副詞節を用いて文を作ることができるよう学習する。			知識 技能	定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート 振り返りシート等
思考 判断 表現	定期考査等				
	実技テスト等				
	授業での活動 課題やレポート				
主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等				
	作品や課題				
	授業での活動 振り返りシート等				
第2学期 期末 考查まで	Lesson 10 Comparing Countries 各国のデータ比較についての文章を理解し、各国のデータ比較を把握する。原級・比較級・最上級を使う比較について学び、原級・比較級・最上級を用いて文を作ることができるよう学習する。 Lesson 11 Cultural Diversity 文化の多様性についての文章を理解し、文化の多様性についての自分の意見を書く。仮定法について学び、仮定法の表現を用いて文を作ることができるよう学習する。 Lesson 12 Japanese Customs 日本の文化についての文章を理解し、紹介する文章を書く。要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・話法について学ぶ。			知識 ・ 技能	定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート 振り返りシート等
思考 判断 表現	定期考査等				
	実技テスト等				
	授業での活動 課題やレポート				
主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等				
	課題やレポート				
	授業での活動 振り返りシート等				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>習得すべき知識や重要な概念を理解し、既知の技能と関連付けたり活用したりすることができる。</li> <li>学んだ知識を用いて、本文の内容を把握し、事実や自分の考えを書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した知識を用いて、話者や筆者の文章の意図を理解することができる。</li> <li>本文の内容について、相手に伝わるように自分の意見を話したり、書いたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けるたりするために粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。</li> </ul>	
学年 末 考查 まで	Lesson 13 Population Issues 人口問題についての文章を理解し、人口問題について自分の考えを伝える。存在や変化の表現について学び、伝えたい意味に応じて、正しく用いて文を作ることができるよう学習する。 Lesson 14 Rights and Equality 権利と平等についての文章を理解し、権利と平等についての課題をまとめる。使役動詞・知覚動詞について学び、伝えたい意味に応じて用いることができるよう学習する。 Lesson 15 Think Globally, Act Locally 世界の問題についての文章を理解し、意見を交換する。日本語とは違う英語らしい表現について学ぶ。			知識 技能	定期考査等
					実技テスト等
					課題やレポート 振り返りシート等
思考 判断 表現	定期考査等				
	実技テスト等				
	授業での活動 課題やレポート				
主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等				
	課題やレポート				
	授業での活動 振り返りシート等				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>習得すべき知識や重要な概念を理解し、既知の技能と関連付けたり活用したりすることができる。</li> <li>学んだ知識を用いて、本文の内容を把握し、事実や自分の考えを書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した知識を用いて、話者や筆者の文章の意図を理解することができる。</li> <li>本文の内容について、相手に伝わるように自分の意見を話したり、書いたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けるたりするために粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。</li> </ul>	

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通			
教科	家庭	科目	家庭基礎		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる (第一学習社)		補助教材等	生活ハンドブック (第一学習社) とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会) 学習ノート (第一学習社)				
科目の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	○	◎	○				
観点別評価	評価規準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。				
	期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
第1学期 中間 期末 考査 まで	家庭科の学び方ー学習から実践へ ホームプロジェクトとは・学校家庭クラブ活動とは ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計, 第2節 家族・家庭と社会とのかわり ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服, 第2節 被服材料と管理 ・社会生活を営むうえで被服の役割を理解し、用途に合った着装を実践できる力を身につける。 ・被服の材料や性能、加工について科学的に理解し、被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につける。 ・健康・快適・安全な生活を送る為に被服に施されている工夫、手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	作品や課題	課題やレポート	授業での活動	
					作品や課題	課題やレポート	授業での活動	
					作品や課題	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
第1学期 期末 考査 まで	6章 衣生活をつくる 第3節 これからの衣生活 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。 5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事, 第2節 栄養と食品, 第3節 食生活の安全のために ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義や食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 ホームプロジェクト ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	定期考査等	実技テスト等	作品や課題	授業での活動
					定期考査等	実技テスト等	作品や課題	授業での活動
					作品や課題	授業での活動	振り返りシート等	
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	評価規準	◎	○	○				
第1学期	評価規準	生活を主体的に営むために必要な、人の一生、衣生活、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	ライフプラン、衣生活、食生活分野の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観点	評価の手段	
第2学期 中間 考査まで	<p>ホームプロジェクトの製作・発表・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトの発表を通して、自分の考えを人にわかりやすく伝える方法を学ぶ。級友の発表を聴く姿勢も育てる。</li> </ul> <p>8章 経済生活をつくる</p> <p>第1節 私たちの暮らしと経済、第2節 消費者問題を考える</p> <p>第3節 持続可能な社会をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。</li> <li>・毎日の生活におけるさまざまな契約と契約の重要性について理解する。</li> <li>・消費者には権利と責任があること、消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。</li> <li>・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。</li> <li>・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。</li> </ul> <p>5章 食生活をつくる 第4節 食生活をデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につける。</li> <li>・調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。</li> </ul>			知識 技能	実技テスト等	
					思考 判断 表現	作品や課題
						課題やレポート
				授業での活動		
				主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等	
					作品や課題	
					課題やレポート	
					授業での活動	
					作品や課題	
課題やレポート						
	授業での活動					
	振り返りシート等					
第2学期 期末 考査まで	<p>5章 食生活をつくる</p> <p>第4節 食生活をデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、健康によい、栄養バランスのよい食事とはどのようなものかを理解する。</li> <li>・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。配膳やマナーに関心を持つ。</li> <li>・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。</li> <li>・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。</li> </ul> <p>3章 充実した生涯へ、4章 ともに生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢社会の課題を踏まえて、高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。</li> <li>・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。</li> </ul> <p>2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。</li> </ul>			知識 ・ 技能	定期考査等	
					思考 判断 表現	作品や課題
						課題やレポート
				授業での活動		
				主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題	
					課題やレポート	
					授業での活動	
					振り返りシート等	
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ◎		
	評価 規 準	生活を主体的に営むために必要な消費生活、環境、家族や保育、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	消費生活、家族や保育、食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。		
学年 末 考査まで	<p>2章 次世代をはぐくむ</p> <p>第1節 子どもの発達、第2節 子どもの生活、第3節 子育て支援と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。</li> <li>・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。</li> <li>・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか考えて実践しようとする。</li> </ul> <p>7章 住生活をつくる</p> <p>第1節 人の一生と住まい第2節 住生活の計画と選択</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。</li> <li>・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。</li> <li>・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適、健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。</li> <li>・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点となる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解し、自身のライフプランニングをする。</li> </ul>			知識 技能	実技テスト等	
					思考 判断 表現	作品や課題
						課題やレポート
				授業での活動		
				主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等	
					作品や課題	
					課題やレポート	
					授業での活動	
					作品や課題	
課題やレポート						
	授業での活動					
	振り返りシート等					
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規 準	生活を主体的に営むために必要な住生活、家族・家庭及び福祉、食生活などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	住生活、家族や家庭・福祉、食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。		

※「◎」特に重視する観点



令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2 年	学科	普通科	類型	共通			
教科	情報	科目	情報 I		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「最新情報 I」(実教出版)		補助教材等					
科目の目標	科学的な知識や思考を用い、情報技術を活用して問題の発見・解決のための活動を通して、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。 ・効果的なコミュニケーションやデータの活用を習得させ、情報社会と人との関わりについて理解させる。 ・社会事象を情報の結び付きとして捉え、問題の解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。 ・情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	重点	◎		○		○		
	評価規準	・社会問題の解決のための知識として情報や情報技術を理解し、身に付けている。 ・事象と情報の関連に着目し、問題解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。		・事象を情報とその結び付きの視点から科学的に捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。		・情報社会の課題を主体的に解決しようとしている。 ・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。		
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価			
					観点	評価の手段		
第 1 学期 中間 期末 考査 まで	第 1 章 情報社会と私たち ・情報に関する知識の意味と相互の関係について説明する。 ・情報化社会の特質について説明し、情報を活用した事例を挙げる。 ・情報モラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解し、SNSの活用など情報技術を用いたコミュニケーションの注意点を挙げるとともに、その活用や対策方法について理解し、改善しようとする。 ・知的財産権やそれが産業や文化に与えている影響と、その法律を挙げる。 ・著作物の適切な利用と公開の方法を理解し、著作物の適切な利用を説明する。 ・個人情報について理解しその保護や管理の方法について説明する。また、知的財産を適切に活用し、主体的に創作活動に参画する。 第 2 章 メディアと情報デザイン ・メディアの種類や機能について説明し、それを分類する。 ・メディアの特性について理解し、情報発信や情報の真意を読み解く。 ・メディアを活用してコミュニケーションの目的に合わせた方法を選択する。 ・インターネットの利用とその特性について説明し、適切なコミュニケーションを図るとともに、効果的な表現や情報伝達について改善する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
					定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
					振り返りシート等			
第 1 学期 期末 考査 まで	第 2 章 メディアと情報デザイン ・情報デザインについて理解し、意味と目的について説明する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解し実践する。 ・報告書やレポートの作成手順を理解し、文書作成や、構成、について工夫する。 ・プレゼンテーションの作成、評価、改善の手順とスライド作成を実行する。 ・Webページ作成について理解し、作成する。 第 3 章 システムとデジタル化 ・コンピュータの構成と動作について理解し、適切に接続、作動させる。 ・ソフトウェアやインターフェースについて理解する。 ・アナログとデジタルについて理解し、その特徴を説明し、情報のデジタル化について、より深く理解する。 ・2進数と情報量の関係について理解し、情報量を適切な単位で表現・変換する。 ・2進数などの相互変換や原理を理解し、情報を適切にデジタルで表現する。 ・音声情報のデジタル化について理解し、データ量を計算する。 ・画像情報のデジタル化について理解し、目的に応じてデジタル表現する。 ・データの圧縮について理解し、数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を適切に扱う。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組 む態度	定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
					定期考査等	課題やレポート	授業での活動	
					振り返りシート等			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎		思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○		
	評価 規準	・情報社会の現状と関連法規について事例を踏まえて理解している。 ・メディアの機能や特性を理解し、適切なコミュニケーション手法を選択できる。 ・コンピュータやソフトウェアの仕組みを理解している。 ・アナログとデジタルの概念を理解し、○進数と関連付けて取り扱うことができる。		・メディアの特性を考慮しつつ情報収集・活用し、その結果もとにしたコミュニケーションや表現ができる。 ・デジタル情報の取り扱いを踏まえ、アナログのデジタル変換や情報活用ができる。		・ネットトラブルや知的財産権の取り扱いなど情報社会の問題を主体的に解決しようとしている。 ・メディアから得た情報を適切に扱い、情報伝達やコミュニケーションに活用しようとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第2学期中間 考查まで	第4章 ネットワークとセキュリティ ・通信方式の種類について説明でき、目的に沿った情報機器の接続を考える。 ・インターネットの階層構造などを理解し、IPアドレス等の仕組みを説明する。 ・WWWや電子メールなどインターネットサービスの内容と仕組みを理解する。 ・通信データの転送速度とファイル圧縮について理解し転送する。 ・情報セキュリティの考え方やマルウェアの種類、被害の実態について理解する。 ・アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択する。 ・暗号化の方式と仕組みを理解し、情報セキュリティ対策をする。 第5章 問題解決とその方法 ・ブレーンストーミング等を用い、問題の発見・解決のための活動に参画する。 ・問題の発見の方法について理解する。 ・解決案を検討するため必要な情報を収集・整理する。 ・合意形成を目指し、問題解決のための資料作成や程表を作成する。 ・問題解決にあわせた評価を計画・実施、分析して結果をまとめる。			知識 技能	定期考査等	課題やレポート 授業での活動		
					思考 判断 表現		定期考査等	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
							主体的に 学習に取り 組む態度	
第2学期期末 考查まで	・データの種類と尺度水準について理解し、データを収集、整理する。 ・表計算ソフトを用いたデータの処理ができ、データを選択して収集する。 ・グラフの種類や機能を理解し、目的に応じデータを可視化して表現する。 ・相関係数を用いた分析など、問題解決のためのデータ分析の手法を選択し、分析結果を効果的に表現する。 ・データベースの意味と必要性を理解し、分析結果について改善する。 ・モデル化、シミュレーションについて理解し、それらが問題解決でどのように利用されているか説明する。 ・モデル化を理解し、表現形式や対象の特性によつて分類する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、問題整理や問題の構造モデルを作成する。 ・動的に変化する現象を図的モデルで表すため表計算ソフトを用いて表現する。 ・シミュレーションの意義について理解する。 ・モンテカルロ法を理解し、それを用いたシミュレーションを行う。 ・待ち行列を事例にモデル化とシミュレーションによる問題解決を行い、確定的モデルのシミュレーションの過程を表やグラフで表現する。			知識 技能		定期考査等		
					思考 判断 表現	定期考査等		課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
						主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○				
	評価 規 準	・情報通信ネットワークの構成や仕組みと情報セキュリティの方法について理解している。 ・問題解決の目的やデータの取り扱いを理解し、分析手法や表計算ソフトの利用を提示できる。 ・モデル化やシミュレーションの内容を理解し、表計算ソフトの関数を選択できる。	・情報の安全確保のため、適切な行動がとれる。 ・問題解決のための活動に積極的に参加し、解決案やグループの合意形成を立案できる。 ・表計算ソフトを用いてモデル化やシミュレーションを作成できる。	・インターネットの仕組みやサービスの問題について検討しようとしている。 ・問題解決の結果を振り返り、改善を図ろうとしている。 ・作成したモデルやシミュレーションを個人あるいは相互に評価している。				
学年末 考查まで	第6章 アルゴリズムとプログラミング ・アルゴリズムとプログラムについて理解し、簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できるとともに問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に取り組む。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解し、目的やコンピュータの種類を考慮しつつ適切なプログラミング言語を選択する。 ・変数や配列を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成する。また、問題解決のアルゴリズムに従い、基本制御構造を使用してプログラムを作成する。 ・関数の概念を理解して関数を使用して簡単なプログラムを設計、作成する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。また、問題解決のためのアルゴリズムを考え、プログラムを作成するとともにそれらを自己・相互評価する。			知識 技能	定期考査等	課題やレポート 授業での活動		
					思考 判断 表現		定期考査等	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
							主体的に 学習に取り 組む態度	
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○				
	評価 規 準	アルゴリズムやプログラムの内容を理解し、フローチャートを作成できる。	プログラミングの手順や表記を踏まえて、関数を用いたプログラムを製作できる。	・問題解決のために作成したプログラムを相互評価し、改善しようとしている。				

※「◎」特に重視する観点